

我が青年期

11

大正六年十月二十日佐渡郡赤泊村大字徳和
生れる。学校は村立赤泊村小学校高等三年卒
業。青年学校五年学校には眞面目に出席して
いたようだ。勉強は余り好ではなかつた。特に
算數が苦手であつた。徴兵検査時学科が小学
三年生くらいの学力だつたそだ。昭和十二
年徴兵検査の結果甲種合格我が家で男子三人
いたが現役は私一人であつた。同年は支那事
變の最中で村から沼集の方が浪山戦死した。其
時、朝鮮羅南駅兵ニヤビ聯隊に入営と決定、

大阪集合十一月下旬當時村長が行人で大阪ま
で送つて千五つた。昭和十二年十一月下旬大
阪港出港浦津海上陸騎兵ニアビ聯隊入隊三年
間の軍隊生活が初まる正月三日が終了すると
さあ大変夜るにまると。ジンタの音が不元ない
初年兵掛工等兵氏名は能坂さん氏名はいまで
も忘れない。福島県出身でした。

要も手かつた。空襲警報が出て内地送て朝解まで空襲する事もながつた。朝鮮かのん。

りで召集もなく平音無事でした。細悪の日がきだ昭和二十一年八月九日夜半より空襲が激しくなり、アメリカ軍が日本海まで来るかと思つた、少聯が参戦したのだ、朝食もなく昼食もなく駅場に出てから埠頭には十二隻の船が入いつて、いか野積には軍需品が滿ぱいでして船の警備は二人ぐらいでは通爆撃機に対抗することとは出来ません。船は全船沈没。野積の

軍需品火災を起し埠頭内は戦場となり、防空構から一歩もでうれずその日ついに召集令状が来た。西村君と一人で寮に帰り炭を起し飯合飯を炊き腹こしらえて入隊した。入隊が遅いと上管にしかられた。鎌砲はもうつぶが玉はわたらなかつた。剣もなかつたようだ。持別隊になつたが、隊長が予備の中尉で通の裏側ばかり回っていたようだ、少聯兵と戦斗した事もなかつた戦斗で見る鎌砲玉もなし、八月十七日か八日頃になつた飛行機の轟音

者もしない。大砲の音がしない。だれかこの日本は戦争に負けたげたといつも終戦の情報は何を伝されぬい、日本が抗伏したその時さ頭が真白になつたようだ、ソ聯の捕虜になつてシベリヤ送りになつたら人性の絶りだと思つた八月ニヤ四瓊武裝解除の聯の兵隊はこながつた、同時に召募解除になり給料は一錢もでず、米と味噌が空たゞけその日から非違行動の初まり 瓜津鉄道局の家族が滿州の黒磯に非難してひるうし、召募解除になつた社員四十名で行動する事になつた、朝鮮民族は朝鮮勝た／＼喜んでいた、日本は負けたのだから小さくなつて疊向は無順に向つて歩き夜は朝鮮民衆に泊めてもらひ、一番困ったはお金が持たた事だつた九月内地に帰るため四百円ぐらい準備しておいたが召募に金を持つて行くことも出来ず、八月三十日ケイザンチソ鉄道の途に一泊した時夜の一時頃駅に金日成将軍様萬歳の声がしたえらい早く待草様が出て来たと想つて後段での話しだは

戰時中白頭山の虎といわれ抗日運動していら
 しひそんの情報は一パンも伝つて来なかつた
 一洞向ぐうし毎日豆滿江夜は民家宿泊無頃に
 近かなるよア、九月二日噴滿州リンコ一駄の
 宿舎に2役かいにまつたその宿の奥さん松平
 さんと田口方、旦那さんは召集で不在四国高
 松の本身太ぶん士族の宏と思われました。寧
 真を見たら三角帽土を頭にかぶつた字真でし
 た四歳ぐらいの女子がいました、奥さんはお
 中には子供さんがないた、柳原さんは独身です

ひときかれた、一年ぐらい食糧もあるから家
 に残してくれないかといわれたが「残る決心がつ
 かなかつた。」後で凡の便に耳にした、取宿舎
 が暴動に会つて不明との事残らんによかつた
 人性の運命と云う者はどこで決まるのですか
 解らぬいもので、リンコーから汽車に乗た
 が無かへ車どこの駅か分からぬが二日も三
 日も止まつて動かない雨も降らなかつたし累
 動にも食をかづ天、武装解除後一ヶ月もかか
 つて撫順の小学校に非難先着いたその時頭ま

まるめた女達服装も男物着てぞろくと来て
来た、理由を聞くと夜間ソ聯兵が来てせな
強姦されるのでこうゆう姿になつたとのこ
と、一週間もしたら夜るソ聯兵が強姦に來た
力ンを叩いたり大声を出しておつぱらつた、
二週間ぐうい立つてから就職先が決つた撫順
炭礦運輸事務所大山駅勤務となつた駄長以下
十二三名いたか電氣機関車一台操車掛中國
系一名私は連結担当給料は一ヶ月單票で四百
円ぐういなつたか、十一月になると寒くなる

のぞ学校にはいられないので分參自分は六軒
宿舎の見廻二墨の一間一月ニ月に成ると夜具
が少ないから寒くて寝られない、同宿舎の前
田自伐さんご主人召集て不在のお産の爲入院
しなければならぬが家を開けて居くと泥棒
12時つて行水たりソ聯兵に入ひられる恐れが
あるので自分を信頼して寝具は使つて下さ
との事で有難い事で一二週間ぐういで退院す
れたのは男の子供之ん廻さんは差後の日立が悪
く開拓團の主婦を雇い水車洗濯をしてもうつ

ていたが、お医者さんが前田さんの状体を見た後自分を呼んで身内の方ですかと尋ねた。身内はいません、前田さんは病状は穎くないとわれた。お医者さんがあつたあと先生どうゆひましたかと聞かう本吉の事はゆわれます。ん香になつて暖かくなる欲くなりつてごまかしておいた、便所の内で倒れた事も一度あり、ほつべたの横に穴があいており、ご本人は助からないと鬼つたのか子供さんを瀧田固の主婦に託し実家迄でお送りせた、無事内地帰られたのか不明、子供さんは内地に帰したので安心したの死去したその後の事は六軒宿金の協力で始末した。四月頃から引揚の話しがで、いた五月一泊で車輪事所を退職して引揚の準備はかゝつた。お金は一人三千円まで預てる事になり。五千円ぐらいいつた。二千円引揚者にお頼し瓦宿舎も後者の親子二人内いつて来た。六月中旬噴撃順を出発葫蘆島に向つた。列車は無がい車駅名不明三日も四日か止つたまゝ登着しなかつた。何日か

つて葫蘆島に着いたか不明。宿舎あつたが屋

根あるがアが一枚もなかつた。時季も六月で

良かつた。いつ船に乗れるか分からぬい。六

月二十七日頃引揚船に乘た船に乗る前に頭か

ら白い粉を掛けられた船に乗たらシラミが一

匹かいなくなつたその白粉はデイデイテイで

あつた。船に乗たらシラミが一匹もしなくな

つた。佐藤さん(岩船本身)おれは船に弱いから

歓事掛を渡つてくれないかと、自分も歓事掛

は大変な仕事だが心よく受けた、当の佐藤

さん隣り合せの(山形県本身)親子(娘さん)独身者

と楽しく語り合つていたようだ。船の旅も四

五日が引揚最後を樂しむのも良い事ではない

か。七月二日か三日頃無事舞鶴港に着く事が

出来た。下船する時和米を頂いて助かつた。

海上も途中げん海灘も平穏だつた。舞鶴港引

工援護局のおせ話で三泊ぐらい泊つた。先づ

最初に復員手続をした。復員手当三百円左

階級兵長に進級と言ふから事務の女子に訪ね

ると上等兵が戻ひからといわれた皆級などは

どうでもよい。三百円の復員手で履物がまわ
がら軍靴一足買つたら三百円だつた。復員手
当はりになつた。京都駅から北陸線で新潟駅
まで。新潟で一泊翌日赤泊行船がなく西津に
出て佐和田で赤泊行のバスがなく木行のバ
スで羽茂で下り杉の浦まで歩いた夕方に乍つ
たので一宿に引揚て三名前不明の家に一泊翌
日赤泊迄歩いた親戚の新宅によ荷物を置いて
実家に帰つたが母は松ヶ崎の勝谷にいつて不
在いであつた。兄嫁が赤泊まで荷物を取りに
行き勝谷にテントした。夕方母が松ヶ崎から
帰つて来た。一家で無事帰つて来たの臺灣人
くれました。母親によく言われた事はお前ら
に傳ぐなれ。金持になれといつてお無理なか
ら親に心配かけられようにしてくれ。終戦後
約く七ヶ月不明の時が親兄弟に心配かけたの
が本あ。